



人文学部中庭に雪だるま出現

2008年2月13日、小講義室前の東屋に子分を従えた雪だるま兄弟が出現しました。

ここ数年人文学部に現れた雪だるまのうちで最大です。

鴻文

第 28 号
発行・鴻文会

山口大学 文理学部文学科・
人文学部・大学院人文科学
研究科 同窓会
山口大学人文学部内
電話 (083) 933-5200

(連絡事務所)
〒753-0831 山口市
平井773-2 沖田ビル202
電話・FAX (083) 928-4527
郵便振替口座01500-4-15902
[http://
homepage3.nifty.com/koubun/
メール: fycsf998@ybb.ne.jp](http://homepage3.nifty.com/koubun/)

このごろの山口大学と人文学部 湯川洋司

鴻文会名誉会長 湯川洋司

鴻文会の皆様にはお変わりなく、ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は、平成二十年七月から人文学部長を拝命し、これに伴い鴻文会の名誉会長と相なりました。身に余る役を仰せつかり、いままお身の縮む思いで毎日を過ごしております。昭和五十八年に山口大学に赴任し教養部に属しましたが、教養部の廃止に伴い、平成八年から人文学部に籍を移して現在に至っております。専門は民俗学です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、山口大学は戦後の昭和二十四年の発足ですが、さらにその歴史を遡れば文化一(一八一五)年の山口講堂に行き着き、これをもって数え始めるといのが現在の大学の公式見解となっております。そうしますと、山口大学は二〇一五年に創立二百周年を迎えることとなります。日本でこれほどの歴史を誇る大学はごく僅かであり、その時間の重さに押しつぶされそうな気もしますが、まずは慶賀すべきことと存じます。

歴史や由緒、古さなどは、時間の経過自体が伴わねばなりませんから、後追いの立場のものとしては常に追いつくことのできない絶対的な強みを感じさせます。それゆえ古さや歴史は権威化しがちであり、そうはならないように襟を正す必要もあるかと思えます。

人文学部は、昭和五三年の文理学部の改組により生まれましたから、今年でち

ようど三〇年が過ぎました。二〇〇年と比べれば僅かなものかもしれませんが、その源となる山口高校(大正八年)まで含めれば一世に近い歴史を持っています。それはそれとしても、三〇年という時間は人間社会の暮らしの時間にぞらえれば一世代というほどの時間であり、この間に幾多の卒業生を送り出し、数々の実績を挙げたことを思えば、古さは尊いとはいえず、要は中身だということになります。

最近の「就職氷河期」などと言われたきびしさも経験したように、人文学部の歩みは順調なときばかりではなかったでしょうが、有為転変は世の習いとすれば、次の三〇年一世代をいかに作り上げていくかということこそ、眼前の大きな課題と思えます。

国立大学が平成一六年から法人化され、その結果当然のように山口大学も大きく様変わりし続けています。人文学部もその渦中にあり、特に教員数の削減が続ぎ、十年後にどのような姿・内容を示すことができるかも予測できにくい状況にあるように思えます。しかしながら、ピンチはチャンスという言葉もあるように、これまで積み上げてきた歴史を踏まえつつ、人文学部の未来を誤りなく開いていきたいと願っております。

鴻文会の皆様には今後とも変わらぬ一層のご支援、ご声援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。(社会学コース教授)

同窓会をめぐる状況

鴻文会副会長 本田義昭

人は毎日のように生活のさまざまな場面などでいろいろな人と出会っています。初対面などで親しくない人と接する時に、趣味が同じであったり、共通の知り合いがいたり、同郷であるなど、話の相手と何か共通点があることがわかると、お互いの心の距離が一気に縮まり、打ち解けた雰囲気になることは誰もが経験しています。

お互いの出身校が同じである場合は親近感はいっそう強く、年齢が離れていても学校生活の今昔について盛り上がりまですし、年齢が近ければ先生や友人など共通に知っている人や当時の出来事について話が尽きません。出身校に対するこの独特の思いを組織化したものが同窓会であるとさえそうです。山口大学でも鴻文会を始め学部ごとに八つの同窓会（山口大学の学部は七つですが、医学部には医学科の霜仁会と旧医療短大・現保健学科の双樹会の二つの同窓会があります）があります。しかし、不思議に思われる方もいらつしやるでしょうが、山口大学全体の同窓会はありませんでした。

これは、昭和二十四年の学制改革の際に複数の前身校が一つになって山口大学となったことに由来します。各同窓会は講演会などの事業を財政的に援助したり、節目の年に記念品を寄贈したり、奨学金

を授与するなど機会あるごとに自分たちの学部を支援してはいますが、大学全体のことは視野の外にありました。国立大学が平成十六年に独立法人化され、それまでは国による護送船団方式で守られていましたが、今では独自に生き残り策を模索せねばならず、他の国立大学でも同窓会組織との連携を密にする動きがあります。また、毎年いくつかの都市で周辺の山口大学卒業者が集まる催しが開かれています。山口大学全体の同窓会が存在しないため、せつかくの結びつきが支部のような組織にならず、単発的な行事に終わっています。

各同窓会を横につなぐ組織として平成十二年に発足した山口大学同窓会連合会があります。このような状況をふまえて平成二十年二月二十八日（木）開催の第十四回同窓会連合会理事会において山口大学同窓会に改めることが承認されました。これまでは各同窓会間の連絡調整機関の色彩が強かったのですが、今後は活動の幅が広がると思われま。そのため、昨年四月から吉田キャンパス内共通教育棟二階に事務局を構え、着々と態勢を整えつつあります。山口大学の歴史は、上田鳳陽が山口の地に山口講堂を設立した一八一五年まで遡ります。人文学部もこの流れを汲んでいます。日本には数百

の大学がありますが、これより古い大学は数校しかありません。かの慶応義塾大学も昨年が開塾百五十周年でした。山口大学は節目の年である二〇一五年に二百年の一大記念事業を行う計画です。これは山口大学同窓会にとりましても最初の大規模なイベントで、物心両面から大学を支援することになりそうです。鴻文会会員の皆様にもご協力を仰がなければなりません。その節はどうかよろしくお願い申し上げます。

大学全体の同窓会活動はこのように順調に動き始めましたが、鴻文会の活動についてもお知らせしたいです。鴻文会は発足以来人文学部に勤務する会員（卒業生である教職員）を中心とする学内幹事がお世話をしてきました。最近十年間では鴻文会会員の教員が六七名いて、忙しいなりにお互いに助け合って何とか運営を続けています。しかし、教員の定員削減の影響で数年後にはその数が三名になることが確実で、しかも増える見込みはほとんどありません。二十年前は大学の教員で忙しいのは学部長や評議員などだけで、その他の教員は教育・研究に十分な時間があり同窓会のお世話をする余裕も多少はありました。ところが最近では教員の数は減る一方であるのに対して、山口大学あるいは人文学部としての仕事の全体量は増加の一途を辿っています。教育・研究に加えて大学・学部運営に貢献することが全教員に求められており、若い教員でも五つくらいの委員を兼任しています。中堅教員ですと午後ずっといくつかの会議が続く日もあります。一人の

学内幹事が鴻文会のお世話に費やせる時間的余裕は法人化を境に半減し、学内幹事の数も数年前の半数以下になりますので、このままでは鴻文会の運営が滞ることが十分予想されます。

鴻文会の仕事は学内幹事がするものだが、時間がないなどと弱音を吐かずには何とかしろ、とお考えの方もいらつしやるでしょうが、この状態で三名だけで従来どおり鴻文会のお世話をするには、授業を休講にするなど本務を犠牲にしなければ無理だといふところまで来ています。学内幹事の仕事は学内者でなければできないことに限定し、それ以外の庶務・会計の業務や会報の編集・発行などは学外者の方にお願いせざるを得ません。一方では、同窓会というものは出身学校とは別組織の団体なので、人文学部当局に属する学内幹事が運営すると、同窓会としての独自の活動になつていないのではないかと、という指摘もいただいています。

折しも今年には四年に一度の総会が開かれる年で、それに合わせて役員も改選されます。学内幹事に代わって鴻文会を動かしていただくのに従来の役員構成の枠組みのままでは可能か、あるいは執行役員（仮称）のような役割を設けるか、これから検討いたします。鴻文会の会員の皆様にはこの窮状を理解していただきたく存じます。山口市周辺にお住まいで鴻文会のためにご尽力いただける方が現れてくださることを切に願っております。

（文理第二十回卒・

ドイツ語学ドイツ文学）

東洋史卒業生の談話会を開く 菊 谷 進

思いはたかまり、それぞれの様子が知りたくて二十年九月十四日東洋史卒業生四人で談話会を設けてみた。(第五回卒業生一名、第六回二名、第八回一名である)。場所・山口県立大学近くの喫茶店「カーザ・ピッコロ」である。

十一時三十分集合約束。それぞれが健康を喜び合い会を始めた。このような会を開いたのは何年ぶりであろうか。長い間会っていないのも淋しいものである。

四人はそれぞれ自分の生活体験や健康などについて披露した。

夢中で話すうちに二時間が過ぎた。この間お互いの笑顔をみるが大変嬉しかった。

お暇のときが来た。来年も又集まろう。参加者もふやして賑やかに開こう。

そんな約束を交して店を後にした。(文理第六回卒・東洋史)

留学生への奨学金授与式

(文理第六回卒・東洋史)

『鴻文』第二十六号でお知らせしましたように、鴻文会では大学院人文科学研究科二次次に在籍する留学生に対して奨学金を授与する事業を平成十九年度から始めました。今年度初めて三名の該当者が現れ、七月十七日に人文学部長室にて授与式が行われました。ささやかな額ではありますが、勉学の助けになることを願っています。

鴻文会「賛助会員」の制度に 各位のご協力をお願い致します

鴻文会活動は、実質、毎年度入学される新入生がご入金下さる「終身会費」(二万円)、合計約一九〇万円をもとに行われております。

鴻文会は、この二十八年の間、同窓会総会の開催、人文学部や日中学术交流奨励会への種々の支援、名簿管理、会報発行などの活動を行ってまいり、近年はこれに、ホームページの管理が加わり、新たに「留学生への奨学金支給」事業を開始するなど、活動が多様化しております。

しかし、それらの活動を支えていく資金は、昨今の厳しい経済事情もあって、決して安心できる状態ではありませんでした。

そのような中であって、お陰をもちまして、ここ数年間卒業生会員や元教員の皆様から多額のご厚志をいただき、本年度開催の諸活動の資金に充てることができました。ひとえに皆様のお力添えのたまものでございます。

活動を支えて下さった各位のお名前を左に



奨学金目録を手にした留学生たち(中央の三名)と湯川名誉会長(右端)、本田副会長(左端)

記して、お礼に代えさせていただきます。

なお、本年度も、賛助会員について、引き続きお力添えをたまわれますようお願い申し上げます。加入者名「鴻文会」(郵便振替口座015000415902)と記した振替用紙を同封いたしております。それをお使いいただいで、何卒、一口千円(なるべく二口以上)のご寄付を、よろしくお願いいたします。

平成十九年度賛助会員

(順不同、敬称略)

- 岡村慎二、橋本美和、小牧久壬、藤林容志、中野文男、田中伸、藤永公然、木村比沙子、宮内美貴子、柏本秋生、中村あけみ、石川哲也、松本馨、匿名希望、河口正、林協三、岩熊寛、倉重雅子、木下由紀子、石原誠、長井知子、井上和男、八田彰、大内田晴俊、大内田董子、桐原恵子、三木允彦、芳野奈央、高橋幸輔、平田隆一郎、西村桂子、田中大介、小川智加、沖中武志、上村作郎、小篠美智子、重政義宣、小野徹、多田幸子、吉井惇一、大八木民恵、溝部忠増、生野龍二、吉村崇、菊谷進、久我直美、棚町亜紀子、吉川敏子、河中西二、國弘豊嗣、村上正和、細山田康弘、利重迪子、桑木紀雄、小川朝子、藤永公然、西本浩美、渡邊基、澤田尚也、藤田和彦、沖田光春、田中忠夫、末裕昌子、森江裕孝、川村崇臣、堀義秀、野村悦子、日野綾彦、三井雅子、宮原省吾、岡部晶子、脇正典、永久亨・珠紀、宮藤隆夫、青木寛、中垣八朗、西村晴二、口田孟、濱寄勢津子、佐竹利雄、増田有紀、保坂理和子、藤井日正、小牧久壬、椎野由紀子、木村孝子、岡田孝之、田村

松山基範先生顕彰碑について

昨年、山口大学の初代学長を務められた松山基範先生が亡くなられて五十周年にあたりました。松山先生は世界的な地球科学者として著名な方で、世界で初めて提唱された地球磁場逆転説は学界で高い評価を受け、「松山逆磁極期」という学術用語は現在も広く知られています。先生は初代学長として揺籃期の山口大学を育て上げ、今日の発展の礎を築かれました。また、山口県ユネスコ協会連盟会長として、山口県の文化振興にも尽力されました。没後五十年にあたり、松山先生に縁のあった方たちが中心となり、先生の功績を称え、後世に伝えるため、顕彰碑を建立する計画が持ち上がりました。鴻文会としても、昨年九月、松山先生の学長時代に在学された文理学部第一回・第四回卒業の皆様にご案内をお送りし、募金に協力してくださいようお願い致しました。

お陰様で五五三名の方や団体から総額三四〇万円の募金が寄せられ、一月二十五日に先生ゆかりの高林寺(下関市)にて百名余りの出席のもと除幕式が開催されました。顕彰碑建立の趣旨に賛同しご協力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成19年度事業報告

1. 第34回役員会（6月9日）
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会（6月21日）
3. 山口大学同窓会連合会理事会（H19年11月29日、H20年2月28日）
4. 会報「鴻文」第27号発行（2月）
5. その他

平成19年度決算

収入総額 2,683,639円

支出総額 2,399,790円

残高（次年度繰越金）283,849円

<収入の部>

科 目	当初予算額	決 算 額	比較増減	摘 要
繰 越 金	517,981	517,981	0	
会 費 収 入	2,050,000	1,810,000	△240,000	10,000円×181人(19年度入学者、過年度分を含む)
繰 入 金	0	0	0	
賛 助 金	300,000	353,590	53,590	賛助金（H19年4/1～H20年3/31）
雑 収 入	0	2,068	2,068	預金利子
合 計	2,867,981	2,683,639	△184,342	

<支出の部>

科 目	当初予算額	決 算 額	比較増減	摘 要
会 議 費	100,000	41,082	△58,918	役員会、交通費、その他
印 刷 費	250,000	201,180	△48,820	会報印刷6,000部、封筒印刷5,000枚
郵 送 費	450,000	449,095	△905	会報郵送料、葉書購入、通信連絡費
事 務 所 運 営 費	820,000	714,500	△105,500	家賃330,000円、人件費339,500円 事務所経費45,000円（電話、電気、町内会費）
ホームページ維持費	140,000	119,682	△20,318	プロバイダー契約料、メールウイルスチェック料、謝礼
事 務 費	25,000	23,453	△1,547	消耗品、その他
奨 学 金	150,000	0	△150,000	第33回役員会（H18年6月10日）にて承認
寄 附 金 費	100,000	100,000	0	日中学術交流奨励会
慶 弔 費	50,000	37,593	△12,407	各同窓会への祝い金、その他香典料、弔電料
積 立 金	650,000	650,000	0	特別会計へ繰入
総 会 費	0	0	0	
予 備 費	132,981	63,205	△69,776	懇親会補助、横断幕、その他
合 計	2,867,981	2,399,790	△468,191	

<特別会計>

科 目	18年度財産	19年度財産	比較増減	摘 要
中期国債ファンド	1,411,777	1,411,777	0	一般会計より繰入
定 額 預 金	4,980,000	4,980,000	0	一般会計より繰入
定 額 預 金	0	650,000	650,000	H19年度一般会計より繰入
合 計	6,391,777	7,041,777	650,000	

平成20年5月24日、監査の結果過誤なく的確に経理されていることを確認します。

監 事 藤 井 英 樹
北 川 健

平成20年度事業計画

1. 第35回役員会（5月24日）
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会（6月）
3. 山口大学同窓会理事会（4月24日、7月）
4. 会報「鴻文」第28号発行（12月）
5. その他

平成20年度予算

<収入の部>

科 目	20年度予算額	19年度予算額	比較増減	摘 要
繰越金	283,849	517,981	△234,132	
会費収入	2,090,000	2,050,000	40,000	10,000円×209人（20年度入学者）
繰入金	200,000	0	200,000	特別会計より繰入
賛助金	300,000	300,000	0	賛助金（H20年4/1～H21年3/31）
雑収入	0	0	0	
合 計	2,873,849	2,867,981	5,868	

<支出の部>

科 目	20年度予算額	19年度予算額	比較増減	摘 要
会議費	100,000	100,000	0	役員会、交通費、その他
印刷費	250,000	250,000	0	会報印刷6,200部、封筒印刷5,300枚
郵送料	450,000	450,000	0	会報郵送料、葉書購入、通信連絡費
事務所運営費	820,000	820,000	0	家賃、人件費、事務所経費（電話、電気、町内会費）
ホームページ維持費	140,000	140,000	0	プロバイダー契約料、メールウイルスチェック料、謝礼その他
事務費	25,000	25,000	0	消耗品、その他
山口大学同窓会分担金	150,000	—	150,000	鴻文会の分担分
奨学金	150,000	150,000	0	第33回役員会（H18年6月10日）にて承認
寄附金費	100,000	100,000	0	日中学術交流奨励金
人文学部30周年事業	300,000	—	300,000	
国際フォーラム支援費	200,000	—	200,000	東アジア研究科
慶弔費	50,000	50,000	0	他同窓会への祝い金、その他香典料、弔電料
積立金	0	650,000	△650,000	特別会計へ繰入
総会費	0	0	0	
予備費	138,849	132,981	5,868	懇親会補助、その他
合 計	2,873,849	2,867,981	5,868	

<特別会計>

科 目	19年度財産	20年度財産	比較増減	摘 要
中期国債ファンド	1,411,777	1,411,777	0	
定額預金	4,980,000	4,780,000	△200,000	20万円を一般会計に繰入
定額預金	650,000	650,000	0	H19年度一般会計より繰入
合 計	7,041,777	6,841,777	△200,000	

山口大学人文学部ニユース

◎人文学部教育職員紹介

哲学・思想コース
教 授 湯川洋司

○人文社会科学

教 授 高木智一

教 授 豊澤靖弘

教 授 脇條一見

教 授 Alim, Djumali

教 授 柏木寧子

准 教 授 古荘真敬

准 教 授 藤川真均

講 師 田中均

教 授 中川哲

教 授 田中均

教 授 橋本義則

教 授 馬本義則

教 授 滝野正彪

教 授 藤永康二

教 授 真木裕一

教 授 村田裕一

教 授 小谷典子

教 授 辻正二

教 授 湯川洋司

准 教 授 山本真弓

○言語文化学科

教 授 日本語学・日本文学コース 添田建治郎

教 授 林野伸一

教 授 磯部芳信

准 教 授 森野佳弘

准 教 授 尾崎千佳

中国語学・中国文学コース 阿部美泰

教 授 富平波記

教 授 根ヶ山慎一

准 教 授 更科徹

アジア言語学コース 平野尊学

教 授 和田学

英語学・英米文学コース 岩部浩三

教 授 太田聡

教 授 宮原一

准 教 授 池園宏

准 教 授 赤羽仁志

ヨーロッパ言語・文学コース 井上三朗

教 授 本田義昭

教 授 下田正利

准 教 授 武本貴志

准 教 授 坂本貴志

言語情報学コース Phillips John D.

准 教 授 乾秀行

2008東アジア国際学術フォーラム「東アジア伝統芸能の世界」

実行委員長 阿部 泰 記

大学院東アジア研究科・人文学部・文学会では平成20年11月15日(土)に山口大学学生会館において東アジア国際学術フォーラムを開催しました。

日本からは山口県立大学稲田秀雄教授の解説で、山口鷺流狂言保存会による「首引」を上演していただきました。「首引」は鎮西ゆかりの者と称する武者がきらびやかな衣服をまとって登場し、鬼たちを翻弄する話です。鬼狂言で鬼たちはみな仮面をかぶって登場します。山口狂言保存会の方々の朗々と語られる言葉が館内に響き渡りました。衣服や仮面は特別に製作されたものです。山口県無形文化財保持者の米川文明氏と保存会の皆さんの演技がとても印象的でした。

韓国からは全羅道光州広域市文化財委員の姜炫求氏の解説で、金鐘福氏のパンソリと伽椰琴、洪英氏の鼓の伴奏でパンソリ「春香歌」と短歌「四季の歌」を上演していただき、洪英氏にテグムの吹奏をしていただきました。申在孝(一八一二〜一八八四)はパンソリの名優を中国の李白や杜甫にたとえてその芸術を高く評価しました。金鐘福氏や洪英氏はそうした19世紀の名優たちの後輩だと言えます。光州広域市文化財委員の姜炫求氏による最初のワークショップはパンソリ理解を助ける楽しい場面でした。

台湾からは中興大学林仁昱教授の解説で、洪瑞珍唸歌団の鄭美氏が「七字調」で、葉文生氏が「勸世調」で二挨拶され、

その後、楊秀卿氏が「ナタ太子東海を騒がす」、王玉川氏が「勸孝歌」を上演されました。唸歌は歌い手が月琴を弾き、大広弦の伴奏で上演する歌物語です。「ナタ太子東海を騒がす」は『封神演義』の物語で、道教の魔法の武器で龍王と戦ったナタ太子は台湾人に信仰されています。国宝級の芸人さんによる深い語りは格別でした。

各地の抜群に優れた上演は観客を魅了し、二〇〇席ある学生会館はほぼ満席となりました。出演された各地の皆さんも山口大学の招待に対して心から喜んでおられました。

人文学部同窓会鴻文会からは多額のご支援をたまり誠にありがとうございます。ここに謹んで御礼申し上げます。(中国語学・中国文学コース教授)



山口鷺流狂言「首引」



台湾唸歌「勤孝歌」



韓国パンソリ「春香歌」

平成二十年度

山口大学人文学部生涯学習事業

山口大学人文学部は、地域社会との交流を深め、幅広い年齢層の豊かな教養の保持と知的向上のために、二十年度も、次のような事業を行ってまいりました。

(一) 第二十一回人文学部公開講演

毎年一回、山口県下において、本学部の二名の教員が一つのメインテーマのもとに、合計三時間程度の講演を行っていただきます。今年度は、長門市教育委員会や長門市文化振興財団等のご協力を得て、「ルネッサナ」といってお邪魔しました。なお、実施にあたっては、鴻文会のご後援を頂きました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

日時 平成二十年十月十八日(土)

午後一時三十分～四時三十分

会場 ルネッサナと 大会議室

メインテーマ 異文化から見た日本の風景

風景

講師・演題

ヒンターエーダー||エムデ・フラン

ツ教授

『漱石を食べる?』—「我が輩は

猫である」に見る食の風景と近

代化』

平山 豊教授

『フランスの文人たちの見た日本

の自然と文化』

*来年度も、メインテーマを変更して、県内のいずれかへ出張する予定をたてております。お近くに参りました節は、どうぞお誘い合わせの上、ご来場くださいませ。

(二) やまぐちサタデー・カレッジ(公開講座)

人文学部の特色を生かした公開講座として平成十三年度に始めました「やまぐちサタデー・カレッジ」(土曜大学)も、お陰様で今年八年目を迎えました。今年度は、前期一講座、後期二講座の、合計四講座(各四回連続)を開講し、総計八十名ほどの方々に聴講頂きました。週末の午後のひととき、社会人と学生が共に楽しく学んでおります。

会場 山口大学人文学部教室

前期(六、七月)

外国語学習コース(英語)

皆尾麻弥講師 『レシビで学ぶ英語』

後期(十月、十一月)

異文化交流コース

阿部泰記教授 『中国の古典文学』

平野尊識教授 『言語と文化』

坂本貴志准教授 『ヨーロッパ古寺巡

礼—イタリア・ドイツ・オー

ストリア』

*なお、来年度も前・後期に開講の予定

です。詳細は、三月頃発行されます受講案内をご覧ください。

(山口大学エクステンションセンター、

電話083-933-5059

<http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp>)

(三) 出前講義

山口大学は、地域の皆さんの知的探求心に応えて「必要などとき、いつでも学べる」場となることを目指し、本学教員が気軽に大学の外に出向いて講義する「出前講義」を行っております。今年度、人文学部教員が出講した出前講義は、山口県下の高校を中心に、計11件に登りました。

来年度も、今年度同様、地域社会の要望に応えてまいります。教員の講義でさる領域などを掲載した資料がありますので、お気軽にお申し出ください。(山口大学エクステンションセンター、

電話083-933-5059

<http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp>)

(四) 開放授業

大学の授業そのものを一般に開放する「開放授業」はエクステンションセンターの事業として平成十八年度から始まりました。人文学部の教員からは、今年度、計5件の授業を開放しました。来年度のご案内は、山口大学エクステンションセンターのホームページなどを御覧下さい。

(山口大学エクステンションセンター、

電話083-933-5059

<http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp>)

御退任教員の挨拶

叱られて

添田 建治郎

一九七三年(昭和48年)に山口大学文学部文学部で28歳、最年少の教員だった私が、あれから36年いよいよ定年退職でお別れのことばなど申し上げる日を迎えることになりました。やがておとずれるとは分かっていますが、月並みな言い方になりますが、抗したい歳月の流れのはやさを身にしみて思い知らされています。

山口大学なしには考えられなかった日々。何を書こうか、書けるほどに真剣に生きてきたか、母校でもある山口大学で、恥ずかしくない研究に取り組み、

教育に真剣に打ち込んできたのか、学生時代はもちろんおつきあいたいいただいた教員の中に友人と言える人が見つかったか。最後の問いの答えを除いていずれも「未熟」のままに終わってしまったと自省しています。過信、慢心、食欲、怒り、疑念、迷い、悔りどれ一つとつてもです。母校にろくな恩返しができなかったと思わざるをえません。ただ間違いなく言えることは、山口大学に入学し山口大学に戻ってきて職を得たことが、自分にとっては幸運だったと言えるなということです。最初の二つの問いは別として、片思いかも知れないが、人一倍人見知りだった自分がかかけがえのない多くの友人に出会う

ことができたということに感謝しています。先輩方と言うまでもない。同年代、お若い方、皆、私よりスケールが大きい方ばかりで、こちらが勝手に慕う片思いになるはず、教えられるばかりです。そのような方々との別れはつらいのですが知り合えて本当によかった、これこそ私の宝です。

振り返ってみれば、文学部、人文学部には研究面でも、人品骨柄でも優れて敬服するほかに先輩の先生方が多くいらした。いろいろお世話になったが、中から一人、水本精一郎先生のことを。先生から叱られ、そのおかげで背筋が一本通りどうにかここまでこれたことになったお礼の思い出を。水本先生とのお別れは『山口国文』第29号にも書かせていただいたが・・・。

24、5年前のことだったろうか、前日から大雪で平地でも朝からすでに20センチくらい積もっていた。山上の積雪を予想出来ず、学生と約束していたこともあり、東鳳翻山の早朝登山をスリルを味わいたいとの思いもあつて挙行、行く先にどんな危険が待っているか想像だにつかず。学生の前で心配顔を見せられないという虚勢もありました。夜明け前から出発。前日には、文学部の教室事務員だった川崎和子さんに「夜の8時までに添田が独身寮に戻ってきてなかったら、警察に捜索願出してね」と軽口を言ったりして。それが禍根を残すことになりました。思った通り、東鳳翻山は登山口から登るに従い積雪が深くなり、山頂の萩側に向

いた方面の雪だまりは腰までスッポリ埋まるほどでした。ワンダーフォーゲル部員だった河口史子さんが先頭に立ってラッセルして道を作ってくれて、その後を私と数人の男子学生が影を見失わないように着いていくのです。途中で、自衛隊の雪中行軍の訓練らしき一隊とすれ違ったり(何時に起床したのだろう)、雪一色に埋まった山口の遠景もかすんでよく見えません。昼飯は風よけの場所を見つけてとり、目的は西鳳翻山までめざす縦走だったから、休憩時間もそこそこに出発。しかし、見ると聞くとは大違いでした。西鳳翻山の登り口辺りまで来て疲労困憊であるなく計画を中止。下山しました。思えば臆して命が助かったようなものです。無事山口に生還。

ただ、それから後がいけない。川崎和子さんにお願した約束、「夜の8時までに添田が独身寮に戻って無かったら、警察に捜索願出してね」をすっかり忘れ、学生の下宿で晩飯と酒盛りをやらかし、独身寮まで歩いて帰ったのはとうに8時を過ぎていました。みると、自室の扉になにやら張り紙が貼ってあり、それは川崎さんの字で「水本先生と電話連絡をとって警察に連絡したのか心配しています。至急知らせてください」。仰天してダイヤルを回した。声を聞いて川崎さんは「よかったよかったです」と無事を喜んでくれたが、水本先生の方はそうはいかなかったのです。学生を預かる身でありながら無謀なことをと、こつてりしぼられ、その時、

自分には教員としての心得がない、軽率のきわみだったことを思い知らされました。日頃何かにつけてご相談に乗っていたが、甘えていた温和な先生の叱声を聞いて、猛省。どうにか並みの教員として道を外さず今日を迎えられたのはそのお陰のようなものです。

私的な思い出ばかり書き連ね、とつてつけたようなあいさつになります。日本の今の時代は、飽食・飽物で、人の命が軽く扱われ、人に迷惑をかけても心が痛まないなど、物で栄え、心で滅びそうな逆風の時代」と言われています。どうか我が人文学部が、金にぬかずかず、いつまでも人の生き方・生きる意味などを考える揺るがぬ「人文学」部としてありますように、祈念しております。

(日本語学・日本文学コース教授)

添田建治郎先生の最終講義のお知らせ

日時：3月7日(土)午後3時—5時

会場：大学会館二階会議室

主催：山口大学人文学部日本語学・日文学
コース

山口大学人文学部国語国文学会

題目：「教育・研究を振り返って」

学びの庭を

離れるにあたって

平山 豊

C'était hier l'été; voici l'automne!

Baudelaire [Chant d'automne]

つい昨日は夏だったのに、もう秋!

ボードレール「秋の歌」

芭蕉翁と称された松尾芭蕉が亡くなったのは五十歳そこそこだということですから、もう充分馬齢を重ねてきたものだと我ながら驚いてしましますが、冒頭に掲げた詩の一行もまた偽らざる実感です。

私は教養部時代が永かったのですが、時の流れでその教養部が消滅した折、他の十数人の先生方と人文学部に移ってきたのは確か平成八年（一九九六年）でした。その当時の講座は比較言語文化で、主に独仏語文化論コースの学生たちを教えることになりました。

それから13年間を人文学部で過ごさせていだいたことになりましたが、その間国立大学の法人化というエポックメイキングな出来事もあり、瞬く間に歳月が流れ去ったような気がします。実は教養部時代からずっと学部 の 授業を コマ担当しており、コンパや中間発表会などの行事に参加させてもらっていましたから環境が一変したという意識

はあまりありませんでした。古くは、人文学部の母体の文理学部時代から何人かの先生方の面識を得て、お世話になったりしました。そうした方々は他の有名大学に移られたり、とつづくに定年を迎えられたりしています。

研究室が人文学部棟に移ってからは人文学部の先生方とはいいつも顔を合わせようになりましたが、とりわけ各種委員会や行事で仕事を一緒にさせてもらって、人柄や考え方、感じ方にじかに接することで親しみやある種の畏敬の念を抱くようになりました。

大学をめぐる環境は厳しくなる一方で、学問の府としての良識をこれからも守りながら、教育研究を維持発展されることを祈願します。

鴻文会のためには大した働きをしておらず肩身が狭いのですが、教務委員やキャリアデザイン委員を務めていた時は、後援会の保護者代表の方々や中学校、高等学校の先生方、図書館、美術館などの文化施設や企業の方々と会う機会が多く、そうした折に山大の文理学部や人文学部の出身ですと名乗られる方も結構おられて、心強く感じましたのでした。

若者をめぐる環境も厳しくなっていますが、今後も卒業生たちが学窓を巣立ってから、鴻文会の名に恥じることなく、鴻（おおとり）のように羽搏いて、社会で活躍されることを願ってやみません。

(ヨーロッパ言語・文学コース教授)

新任教員の挨拶

いあごせし

田中 均

今年の四月に、人文学部の哲学・思想講座で美学を担当する講師として赴任いたしました、田中均と申します。このたび『鴻文』にて同窓生の皆様にご挨拶する機会を与えて頂きました。これから研究・教育に尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の専門分野は、18世紀末から19世紀初頭にかけてのドイツ・ロマン主義の芸術論で、そこで扱われている多様な問題についてこれまで研究して参りました。今後は、ロマン主義の前後の時代に視野を広げて西洋美学の歴史を探求するとともに、現代の芸術現象に即して、芸術とは何かを解明していきたいと思っております。

さて、今私がこの原稿を書いております部屋は、この三月までは奥津聖先生の研究室でした。実は私にとって奥津先生は大学院の美学芸術学研究室の三〇年も先輩に当たられる方で、このたび山口大学に赴任するにあたっては、果たしてそのような大先輩のお仕事を引き継いでいけるのだろうかとお大変心許なく思っております。

実際に、これまで折に触れて、奥津先生が学問と芸術の両面にわたって山口の地に大きく深く根を下ろされている

ことを知るにつけても、責任の大きさ重さを痛感致します。それでも幸い大過なく最初の年を越せる見通しが立ってきましたのは、周囲の皆様から日頃より頂くご助言やご配慮のおかげと感謝しております。ちょうどこの研究室が、窓の外に広がる豊かな緑とどっしりとした山並みに囲まれているように、自分も皆様の温かい目に見守られていると感じる毎日です。

ところで、この山並みも山口ならではの風景ですが、山口らしいと言えば、週末の朝と夕方に走るSLやまぐち号の警笛が町に響きわたるのも、この土地を代表する、いわば「耳で聞く風景」と申せましょう。

こちらに引越して最初のうちは、どこからともなく聞こえる、もの悲しいようなこの響きは何だろうかと怪訝に思っておりますが、今ではSLの警笛を聞くたびに、自分はこの地でこういう思いを新たにしております。先日両親が山口を訪れまして、家族三人でやまぐち号に乗車しましたが、昔国鉄でSLの機関士をしておりました父は、昔を思い出して大いに喜んでおりました。私は父の機関士時代を知りませんが、これも自分と山口を結ぶ何かの縁だろうかとの感慨を抱きました。

つい話が脱線してしまいました大変恐縮ですが、今後ともなにとぞよろしくお願い致します。

(哲学・思想コース講師)

研究室紹介

言語情報学コース

19年度より言語文化学科が従来の3講座制からアジア言語文学講座と欧米言語文学講座という東西に分かれた2講座制に移行したことに伴い、学生のコース制も講座を母体にした形で再編されることになり、欧米言語文学講座内に移動した言語学および言語情報処理学の教員で言語情報学コースが装いも新たにスタートしました。

教員は、言語情報処理学が専門で、プログラム言語を使って自動翻訳システムの研究や言語分析をしておられるジョン・フィリップス先生と、言語学が専門の乾秀行の2名体制です。大学を取り巻く厳しい予算状況の中、後任人事がしばらく凍結されたこともあり、当面は講座内の他の言語学系教員の助けを借りながら、乗り切ることになります。ただ辛いことばかりではありません。何よりもコースのエネルギーは学生が存在です。今年新コース発足後初めての学生を受け入れましたが、

コース定員の上限にあたる15名が来てくれました。この4月から活気に溢れています。

さて世界には現在六〇〇〇を超える言語が話されていると言われていて、ところがこれから一〇〇年も経つとそ

の大半が地球上から永遠に消滅してしまうと予測する学者もいます。英語や中国語といった話者数を多く持つ巨大言語によって多くの少数言語が消滅の危機を迎えているということです。自然界の生態系が破壊されているという話は昨今のエコブームでよく耳にします。たとえば、琵琶湖の淡水魚がブラックバスなどの外来魚に食われているという話を聞くと「何とかならないものなのか」と多くの人が心を痛めるわけです。これは、淡水魚自体が食べられてしまつて、生物種として地球上から永遠にいなくなつてしまう恐れがあるからです。ところが、言語の世界にも同じような事が起こっているのです

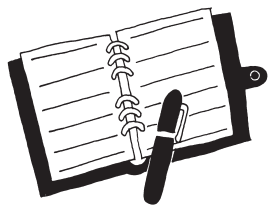
が、どういふわけか一般の人にはその意識があまり芽生えません。それは人間自体が消えてなくなるわけではなく、ただ次の世代に言語が引き継がれないことで、結果として少数言語話者がい

なくなつてしまうからです。つまり、それまで少数言語話者だった人が自分たちの子供にはもつと政治的・経済的・社会的に強い言語を学ばせようとするため、世代間で言語交替が起こっているのです。我々が一生懸命英語を勉強するのに似ています。もちろん今の本人にしてみれば、たとえば今の日本では、アイヌ語を話すよりも日本語を話した方が便利で有利であることは疑いのない事実です。ここに言語の生き残りの難しさがあります。

人類史上歴史に痕跡を残さず消えてなくなった無数の言語があつたでしょう。しかし、この一〇〇年の間に起こっている言語消滅は、かつて人類が経験したことのないスピードであることも事実です。生物種の多様性が大切なように、言語の多様性は人類の貴重な財産に他なりません。また、それぞれの言語は文化と密接に関係していますので、言語を知ること文化を知ることにも繋がります。一つ一つの文化からは学べべき何かがあります。フィリップス先生と乾の関心事の一つに、そういった少数言語の記述があります。フィリップス先生はこれまでイギリスのケルト系の少数言語の記述をしてこられた経験があり、また乾はここ数年アフリカのエチオピアに毎年出かけ、今までにほとんど誰もきつちりと調査したことがなかった、エチオピア国内の少数言語の記述をしております。

まさに少数言語同様、我々のコースは学部内では小さな組織です。時代の流れの中で消えていくつもりではありません、精一杯頑張つていくつもりでありますので、このようなちっぽけなコースにも温かい目でご支持いただけましたら幸甚です。

(乾秀行准教授)



平成十九年度

人文学部卒業生・大学院修了生進路状況

人文社会学科

建設業

明星工業(株)

製造業

三和テッキ(株)、鳴海製陶(株)、日本食研(株)、(株)リョーイン、山忠商店

情報通信業

長崎新聞社、(株)ネクシーズ、(株)Kビジョン、(株)NTTデータクイック、(株)キユーブシステム、(株)シナジーパルス、(株)エイム

運輸業

(株)トナミ運輸、

卸売・小売業

(株)イズミゆめタウン、西沢本店、美作グループ、(株)はせがわ、リンガーハット、(株)ミスターマックス、(株)リユー中国、(株)ニトリ、(株)高松天満屋、(株)デオデオ、(株)丸久、サンレジャン(株)、(株)メガネトップ、ヤマノグループ

金融・保険業

山口銀行、山陰合同銀行、宮崎銀行

不動産業

(株)レオパレス21(株)セイクレステ

飲食店・宿泊業

(株)スカイラーク、神戸ベイシエラトンホテル、一ノ俣温泉観光ホテル

教育・学習支援

龍谷学園高等学校(教員)、誠英高等学校(教員)、(株)KOMOSIN、ELBEC教育図書センター、ヒュウマンアカデミー、山口県総合自動車学校

サービス業

(株)雇用促進事業会、(株)マイテック、エステックTBC、ぎじろくセンター、(株)ボデイワーク、(株)アシバラ、(財)北九州市芸術文化振興財団、神戸学院大学法科大学院図書館

公務員

名古屋国税局、久留米市役所、広島市役所、皇宮警察、佐賀県庁、山口県警察、広島県警察、大分県警察、広島国税局、三原市役所、指宿市役所、静岡市役所、山口大学(職員)、鳥取大学(職員)、下関市立大学(職員)

進学

山口大学大学院、京都大学大学院

言語文化学科

農業

香川県農業協同組合

製造業

(株)近計システム、デルタ工業(株)、再春館製薬所、(株)大阪タイユウ電気・水道・熱供給

中部電力(株)

情報通信業

(株)アイオス、佐賀電算センター、(株)西日本情報システム、(株)クリック、(株)ソフトバンクモバイル、(株)宇部情報システム、(株)プロビスマ、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、スーパーソフトウェア(株)、(株)富士通システムズ、(株)アルファテックノロジー、NTTデータネット(株)、ソフトウエアサービス(株)

運輸業

全日空空輸(株)、センコー(株)、後藤運輸(株)、日本梱包運輸倉庫(株)

卸売・小売業

(株)丸久、(株)ライトオン、(株)資生堂、メガネの田中チェーン(株)、(株)ニトリ、日本出版販売(株)、(株)アルビオン、(株)サダマツ、(株)太陽家具、中央出版(株)

金融・保険業

広島信用金庫、呉信用金庫、日本生命保険相互(株)、(株)損害シヤパン商工組合中央金庫、

不動産業

(株)セイワ地研、東建コーポレーション、(株)レオパレス21、長谷エライブネット

飲食店・宿泊業

ホテルマリックス

教育・学習支援

長崎県(教員)、山口県(教員)、野田学園(教員)、桜スクール、神奈川県(教員)Attackコーポレーション、(株)しちだ教育研究所

サービス業

毎日コミュニケーションズ、サニクリン九州、(株)マルハン、JTB中国四国、(株)ハローネット、クオリティアイコンフィデンス(株)

公務員

福岡県庁、大分県庁、広島市役所、延岡市役所、益田市役所、島根県警察、佐賀地方裁判所、鏡野町役場

進学

山口大学大学院、福岡教育大学大学院

人文学部研究科

就職

福岡県庁、広島市役所、広島大学(職員)、かわしま進学塾(株)さなる九州進学ゼミ、(株)ビックモーターグループ、CDS(株)、日酸TANA KA(株)、(株)タイム、慶進高等学校(教員)

進学

山口大学大学院東アジア研究科(博士後期課程)

入学年度別学生数

(平成21年2月1日現在)

学部	学科・専攻	性別	H20	H19	H18	H17	H16	H15	H14	H13	計	
			男	女	男	女	男	女	男	女		男
人文学部	人文社会科学	男	43	28	35	50	6	6			1	169
		女	61	70	64	53	3	1				252
		計	104	98	99	103	9	7			1	421
	言語文化科学	男	17	11	22	17	2	2			1	72
		女	83	86	75	74	5					323
		計	100	97	97	91	7	2			1	395
合計	男	60	39	57	67	8	8			2	241	
	女	144	156	139	127	8	1				575	
	計	204	195	196	194	16	9			2	816	
人文科学研究科	地域文化攻	男	4	2								6
		女		4								4
		計	4	6								10
	言語文化攻	男	2	3	1							6
		女	3	5								8
		計	5	8	1							14
	合計	男	6	5	1							12
		女	3	9								12
		計	9	14	1							24

鴻文会 会員名簿利用規則

- 一、会員名簿の更新（新規入会・異動に伴う）と保管は事務局で行う。
- 二、会員名簿は会員に限り開示することを原則とする。
- 三、会員名簿は、会員相互の親睦、会の発展を目的とした利用に限り使用することが出来る。営利を目的とした利用は禁止する。
- 四、会員名簿の開示は、直接に事務局で求めるか、郵便またはファックスで申し込み、事務局は、申し込み者が会員であることを確認して会員名簿を送付する。

連絡先などの通知方法の変更について

転居や結婚などで連絡先が変わった時には、従来は「異動通知カード」により鴻文会事務局に知らせていただいております。この料金受取人払の葉書は毎年五千部印刷して会報に同封していましたが、これを利用した変更届の連絡は一年に五十件程度です。

文字による連絡方法が郵便だけの時なら「異動通知カード」は必要でしたが、

- 五、会員名簿の開示申請者名簿（利用者名簿）を作成し事務局で保管する。

現在では会員の多くの方がメールアドレスをフックスを利用していただいていると思いますので、誠に勝手ながら「異動通知カード」を廃止させていただきます。今後はメール、フックス、郵便のいずれかの方法で連絡してくださいようお願い申し上げます。鴻文会の連絡先はこの会報の第一ページの右上をご覧ください。会員の皆様に負担をおかけするのは大変心苦しいのですが、葉書印刷の費用も少なくはありませんので、どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、連絡先変更などの連絡をくださる際は、次の事項をご記入ください。これらの個人情報に厳格に管理し、目的外利用はいたしません。

学部卒業・大学院修了の別
卒業（修了）年月
卒業（修了）時所属コース（専攻、講座）
氏名（漢字とふりがな）
郵便番号
住所
電話番号
メールアドレス
勤務先名

編集後記

『鴻文』二十八号をお届けします。編集作業になかなか時間が取れず、大幅に遅れて大変申し訳ございません。特に、早くから原稿をお寄せいただいた方々には深くお詫び申し上げます。過去三年の『鴻文』の編集後記でもそれぞれの編集担当者が書いておりますように、独立法

人化後の定員削減と業務量の増加のせいで人文学部教員一人当たりの仕事量は激増し、学内幹事が鴻文会のお世話をする体制は限界に来ております。鴻文会のために「尽力いただける方がいらっしやいませ」たら、「二報をお待ち申し上げます」。

少子化の影響で大学進学希望者の数は全国的に減少傾向にあります。山口大学人文学部にはお陰様で毎年一定の志願者が集まり、熱心な学生が入学しています。入口につきましてはそれほど心配はなさそうですが、出口の就職は相手があつてのことで、学生本人の努力や教職員の支援だけではどうにもならない面があります。

今年度の夏休みまでは売り手市場と言われ、希望通りに内定を得た学生は例年よりも多かつたようです。ところが、夏休み以降はアメリカに端を発した世界的大不況の影響で就職氷河期が再来し、これから就職活動を始める三年生・修士一年生は厳しい現実と直面しています。同じ年度でこれほどの明暗が生じるとはこれも予想していませんでした。

日本では「新卒」に特別な意味があり、卒業・修了後どこに就職し何をしたがが、その後のキャリア形成に大きな影響を及ぼすようです。就職活動の時期が好不況のどちらであるかによつてその後の人生が大きく左右されるのは何とも理不尽なことです。会員の皆様におかれましても、これから巣立つ後輩のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と一層のご発展をお祈り申し上げます。（H・Y）